以下の等式をすべて足し上げる．

結果的には以下の式が成立

ジャンプ項の調整によってと変化したとすると，変化後の標準偏差と変化前の標準偏差は以下の関係である．

ここで，

とすると，このグラフは以下のように，が小さい部分で0であり，が大きくなるにつれ，一定値に漸近する．

折れ線グラフ

中程度の精度で自動的に生成された説明

も年限によらず一定であるため，ジャンプ項の調整をした際，株式四半期収益率の標準偏差は，最初の部分では変化せず，時間が経つにつれ，元の標準偏差に定数をかけたような変化をする．